

「養老桜とアートの小径プロジェクト」
文化と芸術の里づくり

桜さんさん会

令和2年3月9日

植樹場所サイクリング・遊歩マップ

養老川周辺の桜植樹事業 (桜さんさん会)





養老川・桜並木のイメージ写真

まちづくり桜植樹プロジェクト(桜さんさん会)

「桜さんさん会」の活動概要

- 平成16年、佐久間市長の提案で「市民会議」が設けられ、市の総合計画の見直しが行われた。この結果、「改訂市原市総合計画(2005～2015)」の市民まちづくり事業の提案書としてまとめられ、この中で「養老川周辺の桜の植樹事業」が提案された。まず養老川中流域に桜並木をつくり、その後 芸術家たちの協力を得て文化と芸術の里造りを行うもの。
- 平成17年2月、当事業の実施団体として、「まちづくり桜植樹プロジェクト(桜さんさん会)」を設立。

以降、地元関係者をはじめ、行政(市原市:河川課、環境管理課、NPOボランティア支援室、教育委員会、:千葉県市原土木事務所)や関係諸団体のご指導・ご支援を頂きながら事業を進めている。

「桜さんさん会」の活動概要

- 当面、養老川の上養老橋から大坪橋間の側道や周辺に桜並木等を整備し(約2.2kmの間)、既存の水辺公園・あじさいロード・フラワーロード・農業センターや名所等を遊歩道(サイクリングロード)で楽しく周遊できるようにする。
- 平成24年度までの桜並木の整備状況は次の通り。
合計 約2.2kmの間を整備済み。
 - ① 山田地区: 約800m間
 - ② 大坪地区: 約550m間
 - ③ 相川地区: 約400m間
 - ④ 二日市場地区: 約450m間
- 平成25年度以降、桜並木間に芸術的オブジェの設置事業をスタートし、現在、下記22個のオブジェを設置した。
 - ① 木製彫刻等: 6体、
 - ② 陶器: 7個、
 - ③ 流木: 1体、
 - ④ 歌詞看板: 1体、
 - ⑤ 川船模型: 1体、
 - ⑥ 句碑: 4体、
 - ⑦ ガラス工芸品: 2体

養老川・山田地区



地域の課題

- 市原市を縦断している養老川の中流域は、美しい田園風景に恵まれ、奈良・平安時代以前の史跡も多数点在しているにも係わらず、河川沿いは永年手入れされておらず、竹・茅・雑木などが茂り、産業廃棄物等の不当投棄も彼方此方にされていた。
当会は、このような状況を改善すべく、平成17年度から同地域を整備して、桜並木づくりや文化と芸術の里づくりを行っているが、市内の人達にあまり知られていない。
- これらの事業は、世代を繋いで実施しなければ成就せず、新たな担い手を確保するには、地域の賑わいや人々を呼び込むことが必要不可欠。

事業の内容

① 事業の目的

当事業は、まず対象地域での桜並木づくりを行い、次の段階で桜並木間に芸術作品を少しづつ（数体／年）設置してゆき、桜並木と芸術作品を組み合わせた文化と芸術の里づくりを世代を繋いで実施する。これにより、将来の観光地づくりを目指す。

② 事業内容

文化と芸術の里づくりを行うため、次などを行う。

- 対象地域の景観維持
- 桜並木の管理、下草刈りなどを4月から11月の間、毎月 大坪・相川・山田・二日市場の4地区で行う。
- 地域の方々から喜ばれる芸術作品などの展示 芸術家のメンバーを中心として、地域住民・工芸会や文化団体関係者と協議しながら、河川道路沿いの桜並木間に芸術作品等を展示する。

期待される効果・今後の展望

- 今年度 5 体の芸術作品等を設置したが、これまで設置した芸術作品等と合わせて、合計 22 体となった。出展関係者は無論のこと地域住民や工芸等関係者の現地訪問（散策）者が増え、当河川道路沿いを訪れる人が更に増加して賑わうと思われる。
- 年々成長する桜並木と芸術作品等の増加等により、関係者のみならず地域の人々の愛着心・郷土愛も育まれると思う。
- 今後更に当事業の実施地域（大坪橋～上養老橋間約 6 km）の散策・サイクリングロード間への芸術作品等の展示を増やし、文化と芸術の里づくりを加速させる。これにより、市外からの訪問者（観光客）も漸次増加し、観光名所になることを目指している。

広聴及び広報活動

- 当活動状況は、毎年度発行の「桜さんさん会だより」で、会員・行政の関連先・支援企業・団体等へ配布。
- 養老川の当活動近隣の22町会へ「桜さんさん会だより」と活動へのご意見・活動協力依頼文書を各町会の班単位での回覧をお願いする。これにより、活動の進め方に関する意見や活動への参加を促進したい。
- ③ 広報いちはらや地元紙へ時々当活動状況の掲載をお願いする予定。

オブジェ(相川地区)



波立ち



はぐくむ

オブジェ（二日市場地区）

養老川の未来を見つめて



夢のつぼみ

再生

養老川 川船(二日市場地区)



歌詞看板(相川地区)



養老桜

永遠(とわ)に母なる 養老川よ
先人様の 血汗川
次の時代に 繋ぎたい
そんな 願いの 養老桜
里を愛する つわもの達の
熱い思いの 絆花

見えない心 見えない苦勞
いつかはきこと 実るもの
人のご恩に 忘れない
感謝笑顔の 養老桜
川は知ってる すべてのことを
映えて穂やか 水鏡

根強い花は すぐには咲かぬ
雨風耐えて 春を待つ
人の思い出 抱きしめて
深く根おろす 養老桜
風を彩る 田園(みどり)に抱かれ
夢と希望の 晴れ姿

二〇二二年四月三十日

作詩 藤野美代

まちづくり桜植樹プロジェクト(桜さんさん会)

オブジェ(相川地区)

木に触れて



句碑(星からの風)

オブジェ(山田地区)



はばたき



ナイスキャッチ

オブジェ(山田地区)



無財の七施



陶器(笑い声)



オブジェ(山田地区)



ほほえみ



トロッコ列車



石碑(鳥兔)

オブジェ(山田地区)

四季への感謝



春を待つ



オブジェ(大坪地区)

養老川に立つトラ



オブジェ(大坪地区)



木彫(77)



句碑(真鴨領)



句碑(ひつじ田)

養老川沿いでの活動



910mm

アルポリ+アルミ枠
+インクジェット+足
(2本)
50×50

片面

アルミ角パイプ
2t×50×50

1800

600

養老川周辺の桜植樹(第七期)

平成二十三年、光風台小学校六年生の生徒(内山勝斗さん)が授業の中で、養老川沿いに植えられた桜の苗木が、将来大きく成長し、その下で満開の桜を眺めながら楽しんでいる様子を想像して詠んだ歌です。

養老の桜の木の下 笑顔咲き

当植樹は、平成十六年度の市民会議で提案されたまちづくりテーマで、ふるさとの美しい養老川と緑豊かな田園地帯を背景に、桜並木を中心とした特徴ある景観づくりと憩いの地域づくりを目指しています。

平成十七年二月、植樹推進のため、ボランティア団体「桜さんさん会」を結成し、地元の方々を始め、千葉県市原土木事務所、市原市及び各種団体のご協力、ご支援を頂きながら作業を進めています。

平成二十三年十一月八日

まちづくり桜植樹プロジェクト(桜さんさん会)

【賛助団体、支援団体(養老・支那町)】
・(株)市原市観光協会
・市原市川を美しくする会
・市原市遊園地活性化協同組合
・その他、地元病院、企業等の十八団体

600mm

良い施設で

二人で過ごさす記念に

二〇一〇年七月二日

澤澤 久男・教子
(様さんさん会)

ひまわり関係者一同の

御健勝を記念します

平成二十二年十一月十四日

清正 正二
(様さんさん会)

我が思い 桜に託し 永遠に

平成二十二年十一月

清正 正二
(様さんさん会)

向日葵入居一〇年 本年奉寿

平成二十二年十月十二日

奥田 利行
(様さんさん会)

二〇〇七年九月三日、

浪速から 此処に来た

平成二十二年十一月十四日

村信 俊明
(様さんさん会)

ひ孫達の 幸を願って

平成二十二年十月三十日

高橋 恵美子
(様さんさん会)

私の新たな人生旅路は

桜咲く国で

二〇一〇年九月二〇日

藤野 美代 (Y.M.O.S.)
(様さんさん会)

さくら苗

朱寿に植えて 記念する

大正十一年一月二十二日

千田 盛栄子
(様さんさん会)

さくら花

川面にうつるし だれかな

大正十一年一月二十二日

千田 盛栄子
(様さんさん会)

備用の桜是木を 夢に見て

妻と歩まん 古希の秋

二〇一〇年十一月十四日

河内 昂藏・陽子
(様さんさん会)

梨沙さん 智哉くん

二〇三〇年目指し

二〇一〇年十一月十八日

浩二・景子
(様さんさん会)

詩音理・十歳

未智代・九ヶ月を記念し

平成二十二年十一月二日

高島 弘
(様さんさん会)

さくら、隆成、陽大、皓聖

まき達の健康と成長を願って

二〇一〇年十一月十八日

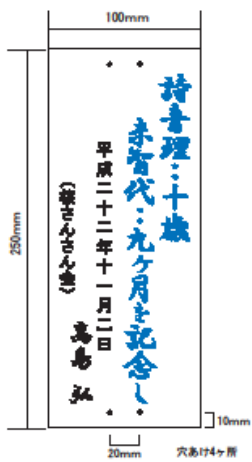
中川 和孝・とく
(様さんさん会)

詩音理・十歳

未智代・九ヶ月を記念し

平成二十二年十一月二日

高島 弘
(様さんさん会)



事業説明看板・桜の里親看板 設置状況



文化と芸術の里づくりを目指して

文化と芸術の里づくりを目指して ～養老桜とアート的小径プロジェクト～

「満開の 桜並木を 夢に見て 妻と歩まん 古希の秋」
会長の河内氏が桜の銘板につづった詩。
すべての桜にそれぞれの想いがつづられる。
時を経て人の想いは同じで、桜並木の遊歩道沿いで、
世代や時空を超えたコミュニケーションが行われている。



養老川と桜

【主な活動実績】

平成17年2月 まちづくり桜植樹プロジェクト「桜さんさん会」設立
平成24年 約200本の桜の植樹が終了
平成25年 芸術的オブジェの設置を開始
(参考URL) <http://www.geocities.jp/sakurasansankai/>

桜さんさん会

文化と芸術の里づくり

きっかけは市原市による市民会議だった。市民主導によるまちづくりを計画する中で考えたのが、養老川を桜並木でいっぱいにし、芸術的オブジェを並べる「養老桜とアートの小径(こみち)プロジェクト」である。

時空を超えたコミュニケーション

植樹をする際には里親を募集し、1本1本全ての桜に里親の想いをつづった銘板を取り付けた。また、小学生が養老川や桜並木の美しさを詠った詩を紹介する看板を道沿いに設置した。

訪れる人々が銘板や詩を読むことで世代や時空を超えたコミュニケーションが生まれる。

信頼できる仲間が増えていった

活動を続けていく中で、活動だけでなく私的なことも相談でき、個人的な協力もし合えるような仲間が出来ていった。これは何よりの財産だ。

人生総仕上げの活動

スタートして満12年、人生総仕上げの活動として、良い町づくりに共感した多くの仲間とやりがいを感じ活動している。

思い描いた景色が出来るまで、20年、30年かかるプロジェクト。ボランティアとしての活動は少々キツイ面もあるが、地域づくりは世代を繋いで継続することが極めて重要。詩を詠った子供たちや里親の子供たちに繋いで、活動を続けていきたい。

11

想い

軌跡



「養老の未来をみつめて」
道沿いには地域に縁のある芸術家が
製作したオブジェを並べている。



～あたたかき 桜の季節に つつまれて
笑顔こぼれる養老の里～
小学生が詠んだ詩の紹介する看板
この看板は7か所に設置されている。



桜さんさん会の人たち
毎春、桜を植えた河川沿いで
お花見会を開催